



地球をデザインする会社

RO-6

東光コンサルタンツの技術短信 No.16 (道路)

道路関係の工事には**施工管理業務**があります。
当社では数多くの施工管理業務実績を有しています。
= 大規模プロジェクトに当社も一役 =

＜ 最近の施工管理実績例 ＞

○件名：新若戸道路計測施工管理調査

発注者；(財) 港湾空港建設技術サービスセンター
新若戸道路（若松側）において、土留工施工時及び各施工段階における土留めの挙動並びに周辺地盤の変状等の計測データを整理・解析するとともに、計測システムの保守管理を実施するものです。(2005.04～2007.03)

※CG；新若戸道路 HP より抜粋

○件名：ベトナム国国道 1 8 号線整備計画調査

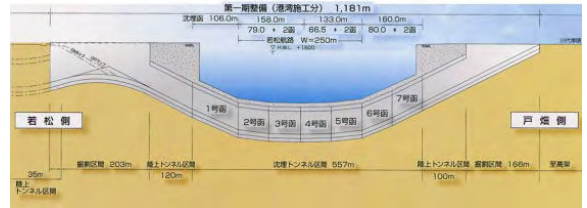
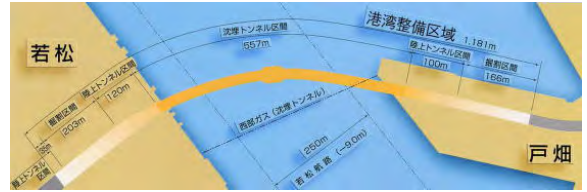
発注者；JBIC
JBIC ローンによる国道 1 8 号線の Noi Bai-Bac Ninh 間の橋梁 14 橋を含む約 3.2 km の往復 4 車線化道路拡幅工事。既供用部幅 11.25m に対して、中央分離帯 3m と新たに 11.25m の舗装道路拡幅を行うもの。

(2005.04～2007.10)

＜ 直近の道路関係受注実績抜粋 ＞

○守口ジャンクション構造検討その他業務

発注者；阪神高速道路(株) (当社のプロポーザル内容が評価され、特定されました)



新若戸道路概要図



施工中の道路

雑学 16 : オムニバスタウンとは…

バス交通を活用したまちづくりを通じ、安全で豊かな暮らしやすい地域の実現を図ることを目的とした国土交通省の制度のひとつ。バスの有する多様（オムニ）な社会的意識（マイカーに比べて人・まち・環境にやさしい）が発揮されることによって快適な交通、生活の実現を目指すまちのこと。これまでに、浜松市・金沢市・松江市など全国 12 都市が指定されています。(国交省 HP 参照)
O m n i b u s とは乗合バスの語源で、「何の御用にでも役立つ」という意味です。乗合バスの発祥地フランスの発着所になっていた雑貨屋の看板にこう書かれていたそうです。



□東光の“高速道路安全性向上提案”事例

施工管理業務で行った、高速道路防護柵等の衝突時安全対策工法の提案事例をご紹介します。

今回ご紹介するのは、事故発生確率が高い箇所での構造物設計変更提案事例です。

◆今回提案の目的

特に死亡事故に繋がる確率の高い構造物区間およびインターチェンジ周辺に着目し、安全性向上を図りました。

◆提案のポイント

①橋梁前後の高欄とガードレールのすりつけ部

高欄妻部への串刺し衝突防止のため、標準図の無い全鋼製高欄や半壁式高欄について、端部に新たにコンクリート壁を設け、そのコンクリート壁前面にガードレールをすり付けることとしました。(写真-1 参照)



写真-1

②トンネル非常駐車帯部

非常駐車帯の棲壁は車進行方向に対して直角な壁となっており、高速の車輛が正面衝突すると重大事故に繋がります。

対策としては通常、システムカディの中をコンクリート充填し監査廊上にテーパーなりに配置する案もありますが、安全性や景観の点をさらに改善することで監査廊のテーパーなりにすり付けたコンクリート壁を設けることを提案し採用されました。(写真-2 参照)



写真-2

③インターチェンジ分流ノーズ部

分流ノーズ部は、従来よりガードレールの前面にクッションドラム等を設置していますが、高速で分岐端部に突入する車輛に対し十分有効に機能できていません。

対策として、最近開発されている可動式のノーズ用ガードレール使用案と、C種のガードレールを等間隔に配置し、それに薄い鋼板をレールの代わりに使用する緩衝型のノーズ構造を比較検討した結果、経済性や採用実績の面から後者を採用としました。(写真-3 参照)



写真-3

※ 提案に当たっては旧 JH長崎工事事務所のご指導をいただきました。



株式会社 東光コンサルタンツ

技術本部

担当営業：

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3丁目32番1号

TEL: 03-5950-7203 FAX: 03-5950-3652

URL: <http://www.tokoc.co.jp>

担当: 福岡支店技術第三部 古賀